

みんなでつくるてっぺんの森林づくり事業（宗谷支庁：地域政策推進事業）

具体的内容	<p>【概要】 道民が森林づくりに直接参加する植樹活動は活発化しているが、その一方で植林後に必要な「除伐、間伐、枝打ち」事業は事業費の高騰などの原因により森林整備が停滞している。 そこで、親子の参加による森林づくり体験活動を実施し、その体験を通し「森の大切さ」や「除伐、間伐、枝打ち」事業の必要性の意識の醸成を図る。</p> <p>【実績】 H17.6.19 中頓別町藤井 藤井共同山林組合（22 林班 98 小班、トドマツ 41 年生） 除伐・つる切り・枝打ち作業体験活動並びにアンケート調査 153 名参加（大人：86 名、小人：67 名） H17.9.16 中頓別町藤井 土窯、移動式炭窯による炭焼き技術の習得 54 名参加（森林作業体験活動の参加者）（大人：54 名） H18.7.23 豊富町東豊富 王子製紙株式会社社有林（86 林班 9 小班、トドマツ 33 年生） 除伐・つる切り・枝打ち作業体験活動並びにアンケート調査 173 名参加（大人：134 名、小人：39 名） H18.10.22 稚内市 稚内北星学園大学「森林づくり地域フォーラム in 宗谷」の開催 基調講演、パネル討議、パネル写真展示並びにフォーラムアンケート調査 163 名参加（大人：163 名）</p> <p>【取り組み始めたきっかけ・活動を始めるまでの足跡】 作業体験活動での事前準備には、職員 6 名が内業と外業班に分かれ、参加者数の確保から始まり、作業体験活動が安全かつスムーズに行われるよう、班編成(大人と小人で一組) 交通手段 トイレの確保 緊急体制の確立 傷害保険の加入等々、あらゆる危険防止策を講じての事前準備作業を行った結果、一人のけが人も出すことなく無事終了することができました。</p> <p>【活動・取組の特徴】 アンケート調査より、小人の回答から 85%が森林を育てるために必要な作業を理解できた 97%が今後もこのような作業体験活動が必要と思う など。 平成 17 年度から 2 力年間、森林作業体験に参加した大人を対象に、「森の大切さ」や「除伐、間伐、枝打ち」事業の必要性を家庭内において子どもたちの未来に語り継ぐ「家庭内からの発信」から、「これからの宗谷の森林づくり」をテーマに「森林づくり地域フォーラム in 宗谷」を、日本で最初に「情報メディア学部」を設立した稚内北星学園大学と共催して開催しました。開催の主旨として、宗谷の 100 年先を見据えた森林づくりに向けた住民意識の醸成を図ることをあわせて、第 58 回全国植樹祭記念と位置づけ開催しました。</p>		
	期待できる効果（自己評価）	五感や創造性を高める 協調性や社会性を育む 運動能力の発達を促す 生命と自分とのつながりに気づく その他（ ）	森や木に関する知識をつける・高める 森や木を通じた地域の活性化を図る 木の文化や技術を伝える・つくる つくり手・買い手・使い手をつなぐ その他（ ）
取組主体	企画者または主催者名	宗谷森づくりセンター（宗谷支庁）	
	参加者（参集範囲）	乳幼児 / 未就学児童 / <input checked="" type="checkbox"/> 小・中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 大人（高校生以上） / <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 / その他（ ）	
参加者の募集	<input checked="" type="checkbox"/> ある / なし 方法：新聞記事に掲載		
HPアドレス・連絡先（担当者）	宗谷森づくりセンター TEL：01634-2-3821 FAX：01634-2-3878 URL：http://www.pref.hokkaido.jp/srinmu/sr-soymc/		

平成17年度の活動

と き：平成17年6月19日(日) ところ：中頓別町藤井 藤井共同山林組合

内 容：「除伐、つる切り、枝打ち」作業体験活動



体験活動デモンストレーション
- 宗谷森づくりセンター職員説明 -



体験活動 - 伐倒作業

と き：平成17年9月16日(金) ところ：中頓別町藤井

内 容：土窯、移動式炭窯による炭焼き体験活動



体験活動 - 土窯



体験活動 - 移動式炭窯

平成18年度の活動

と き：平成18年7月23日(日) ところ：豊富町東豊富 王子製紙株式会社社有林

内 容：「除伐、つる切り、枝打ち」作業体験活動



開会式



体験活動 - 枝打ち

と き：平成18年10月22日(日) ところ：稚内市 稚内北星学園大学

内 容：「森林づくり地域フォーラム in 宗谷」の開催



会場内



パネル討議

つべつ緑の少年団活動

具体的内容	<p>【概要】 つべつ緑の少年団は、愛林の町つべつの豊かな自然と触れ合うことで、人と自然と地域を大切にする心豊かな子どもたちを育てることを目標とし、活動を行っています。 主な活動場所は、北海道立津別21世紀の森を中心に、津別町内の木の関係の施設や町外の施設を利用しています。 特に林業体験は、学校でも体験できない内容だけに、のこぎりを持つ手も真剣に取り組んでいました。ドングリ広いから始まり移植まで数年を要する苗木づくりでも、床替え作業など大人でも体験しないような作業に従事し、根の選定などに取り組んでいました。</p> <p>【実績】 平成17年度活動実績＝緑の募金・清掃活動・苗木づくり・木工教室・キャンプ・林業体験（間伐）・ワカサギ釣・木の実の模型づくり等の事業を行い、延べ184人の参加がありました。</p> <p>【取り組み始めたきっかけ・活動を始めるまでの足跡】 津別町は昭和57年に、全国ではじめて「愛林の町」を宣言し、森林とともに生きる決意を新たにしました。この愛林の町の心を育てることを目的に、町内の4年生以上の児童を対象に平成元年6月に少年団が組織されました。</p> <p>【活動・取組の特徴】 (1) 緑を愛し、育てるために必要な実践活動 (2) 自然に親しむため、草、木、鳥などの保護育成活動 (3) 緑を守るための啓発活動 の3つを目標に、それに沿った事業を実施しています。講師はほとんどが少年団の指導員（ボランティアで、現在4人）と事務局で対応しますが、時には外部講師を依頼したり、他の団体の活動に参加することもあります。 森林や木にこだわりながら、子どもたちが楽しめる活動を目指しています。</p>																				
	期待できる効果 (自己評価)	<table border="1"> <tr> <td>五感や創造性を高める</td> <td></td> <td>森や木に関する知識をつける・高める</td> <td></td> </tr> <tr> <td>協調性や社会性を育む</td> <td></td> <td>森や木を通じた地域の活性化を図る</td> <td></td> </tr> <tr> <td>運動能力の発達を促す</td> <td></td> <td>木の文化や技術を伝える・つくる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生命と自分とのつながりに気づく</td> <td></td> <td>つくり手・買い手・使い手をつなぐ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他（郷土愛を育む）</td> <td></td> <td>その他（ ）</td> <td></td> </tr> </table>	五感や創造性を高める		森や木に関する知識をつける・高める		協調性や社会性を育む		森や木を通じた地域の活性化を図る		運動能力の発達を促す		木の文化や技術を伝える・つくる		生命と自分とのつながりに気づく		つくり手・買い手・使い手をつなぐ		その他（郷土愛を育む）		その他（ ）
五感や創造性を高める		森や木に関する知識をつける・高める																			
協調性や社会性を育む		森や木を通じた地域の活性化を図る																			
運動能力の発達を促す		木の文化や技術を伝える・つくる																			
生命と自分とのつながりに気づく		つくり手・買い手・使い手をつなぐ																			
その他（郷土愛を育む）		その他（ ）																			
取組主体	企画者または主催者名	つべつ緑の少年団・津別町																			
	参加者（参集範囲）	乳幼児 / 未就学児童 / <input type="checkbox"/> 小・中学生 大人（高校生以上） / 高齢者 / その他（ ）																			
参加者の募集	<input type="checkbox"/> あ <input type="checkbox"/> る / な し 募集時期： 4月 対 象： 町内の小学4年生以上の児童																				
HPアドレス・連絡先（担当者）	緑の少年団事務局（津別町産業課林務係） TEL：0152-76-2151 FAX：0152-76-2976																				

森林体験ツアー

【概要】

オホーツク木のプラザでは、会員の市町内において、町ごとの特色を生かした森林体験ツアーを毎年2回実施している。体験ツアーの中では、枝打ち体験、森林クイズ、樹木の説明等を実施し、森の役割を理解してもらうことを目的としている。

【実績】

平成 17 年度 2 回開催 28 人参加 平成 16 年度 1 回開催 14 人参加
平成 15 年度 1 回開催 8 人参加

【取り組み始めたきっかけ・活動を始めるまでの足跡】

一般の方々が気軽に森林に入る機会は少なく、地元にはどんな森林があり、樹木が生えているのか知っている人はあまりいない。身近にある森林や樹木の役割や大切さを知っていただくためには実際に自然と触れ合う機会を作り、体験していただくことが一番だと考えられる。

【活動・取組の特徴】

体験ツアーにて、森の役割、伐採、製材、加工、商品といった、一連の経過を実際に見ること、木製品の認識を高めてもらい、森林の役割等も理解してもらう。

具体的内容

期待できる効果 (自己評価)

五感や創造性を高める		森や木に関する知識をつける・高める	
協調性や社会性を育む		森や木を通じた地域の活性化を図る	
運動能力の発達を促す		木の文化や技術を伝える・つくる	
生命と自分とのつながりに気づく		つくり手・買い手・使い手をつなぐ	
その他()		その他()	

取組主体

企画者または主催者名

社団法人オホーツク森林産業振興協会

参加者(参集範囲)

乳幼児 / 未就学児童 / 小・中学生
 大人(高校生以上) / 高齢者 / その他()

参加者の募集

あ る / な し

経済の伝書鳩(地元紙)、各種新聞社記事にて掲載

HPアドレス・連絡先(担当者)

社団法人オホーツク森林産業振興協会
TEL 0157-25-1331
FAX 0157-25-1332
E-mail woodplaza@owp.or.jp
URL http://www.owp.or.jp

森林体験ツアー



初夏の森林浴ツアー等

具体的内容	<p>【概要】 平成8年度より、毎年7月上旬に「初夏の森林浴ツアー」を開催しています。 この催しは管内地域の住民に、道有林の持つ森林の役割や森林・林業への理解を深めていただくため、滝めぐり・湿原沼散策（平成17年度から湿原植物保護のため隔年で実施）や森林散策を楽しむこととしています。</p> <p>【実績】 平成18年度 16名（初夏のピヤシリ湿原沼散策ツアー） 平成17年度 20名（初夏の森林浴ツアー） 平成16年度 22名（初夏のピヤシリ湿原沼散策ツアー） 平成15年度 33名（初夏のピヤシリ湿原沼散策ツアー） 平成14年度 20名（初夏のピヤシリ湿原沼散策ツアー）</p> <p>【取り組み始めたきっかけ・活動を始めるまでの足跡】 林務署から管理センターへ組織替え時に、森林総合利用（森林学習・林業体験）並びに森林生態系の発信を行うことを目的に取り組みが始まり現在に至っています。</p> <p>【活動・取組の特徴】 緑豊かな道有林の山を直接見ていただき、すばらしい森林のはたす役割を理解してもらいます。 普段、日常生活の中になかなか取り入れる事の難しい森林環境について、学ぶ機会があることを心待ちにしていた方々が集まるため、説明の理解や学びの吸収が早いと感じられます。</p>		
	期待できる効果 (自己評価)	五感や創造性を高める 協調性や社会性を育む 運動能力の発達を促す 生命と自分とのつながりに気づく その他()	森や木に関する知識をつける・高める 森や木を通じた地域の活性化を図る 木の文化や技術を伝える・つくる つくり手・買い手・使い手をつなぐ その他()
取組主体	企画者または主催者名	網走西部森づくりセンター	
	参加者(参集範囲)	乳幼児 / 未就学児童 / 小・中学生 <input type="checkbox"/> 大人(高校生以上) / 高齢者 / その他()	
参加者の募集	<input checked="" type="checkbox"/> あ る / な し 体力に自信のある人		
HPアドレス・連絡先(担当者)	網走西部森づくりセンター管理課 TEL: 0158-82-2158 FAX: 0158-82-2160		

初夏のピヤシリ湿原沼散策ツアー



雄武町
平成18年度
登山道中間地点
一息ついて体調を整えている



雄武町
平成18年度
湿原に到着
注意事項及び現況説明



雄武町
平成18年度
昼食中
各自お気に入りの箇所できつろぎ食事



雄武町
平成18年度
自生の食虫植物(モウセンゴケ)
湿原の一面に発生

秋の森林体験ツアー

具体的内容	<p>【概要】 平成12年度より、毎年10月上旬に「秋の森林体験ツアー」を開催しています。 この催しは管内地域の住民に、道有林の持つ森林の役割や森林・林業への理解を深めていただくため、紅葉した道有林の中で滝めぐりと、色づいた落ち葉拾いを楽しむこととしています。 また、森林散策で採取した落ち葉を利用した、押し葉しおりや押し葉コースターを作成します。</p> <p>【実績】 平成17年度 17名 平成16年度 26名 平成15年度 29名 平成14年度 35名</p> <p>【取り組み始めたきっかけ・活動を始めるまでの足跡】 林務署から管理センターへ組織替え時に、森林総合利用（森林学習・林業体験）並びに森林生態系の発信を行うことを目的に取り組みが始まり現在に至っています。</p> <p>【活動・取組の特徴】 自然豊かな道有林の山を直接見ていただき、すばらしい森林のはたす役割を理解してもらいます。 特に、小学生の参加があり親子で楽しむ様子が微笑ましい光景です。 秋に山奥深くまで立ち入るには、少々、心細くなりがちですが、大勢で色鮮やかには紅葉や、緋色に見える滝の岩肌や川床の姿に感激しています。 また、森林の現況説明や山づくりの大切さには参加者は熱心に聞き入っています。</p>		
	期待できる効果 (自己評価)	<p>五感や創造性を高める</p> <p>協調性や社会性を育む</p> <p>運動能力の発達を促す</p> <p>生命と自分とのつながりに気づく</p> <p>その他()</p>	<p>森や木に関する知識をつける・高める</p> <p>森や木を通じた地域の活性化を図る</p> <p>木の文化や技術を伝える・つくる</p> <p>つくり手・買い手・使い手をつなぐ</p> <p>その他()</p>
取組主体	企画者または主催者名	網走西部森づくりセンター	
	参加者(参集範囲)	<p>乳幼児 / 未就学児童 / <input type="checkbox"/>小・中学生</p> <p><input type="checkbox"/>大人(高校生以上) / 高齢者 / その他()</p>	
参加者の募集		<p><input type="checkbox"/>あ る / な し</p> <p>条件は特になし</p>	
HPアドレス・連絡先(担当者)		<p>網走西部森づくりセンター管理課 TEL:0158-82-2158 FAX:0158-82-2160</p>	

秋の森林体験ツアー



西興部村
平成17年度
赤岩の付近
川床の岩盤が酸化して赤く見える



西興部村
平成17年度
黒岩の滝付近
ゆっくりと森林を散策する



西興部村
平成17年度
押し葉しおりの作成中
採取した野草や落葉を利用して創作活動



西興部村
平成17年度
講師の指導を受ける
創作のアイデアやヒントをもらう

森林に親しむ集い

【概要】

平成10年度より、毎年11月中旬秋に「森林に親しむ集い」を開催しています。
この催しは管内地域の住民に、森林の役割や森林・林業への理解を深めていただくため、森林のつる切り体験活動とそこから生産される副産物のつるを利用してリースを作る活動を楽しむこととしています。

また、午前・午後・全日程とどのメニューでも参加出来、リースづくりでは一部の参加は部材を持ち込んで、アイデア抜群の独創的なリースを作り楽しんでいます。

【実績】

平成17年度 23名

平成16年度 33名

平成15年度 26名

平成14年度 44名

具体的内容

【取り組み始めたきっかけ・活動を始めるまでの足跡】

林務署から管理センターへ組織替え時に、森林総合利用（森林学習・林業体験）並びに森林生態系の発信を行うことを目的に取り組みが始まり現在に至っています。

【活動・取組の特徴】

森林の保育作業を兼ねてクリスマスに飾るリースの素材を採取しています。

この時期、林内は見通しが良く目当ての素材は探しやすく、鋸や剪定鋏を上手に使いながら、つる切りを行っています。

トドマツ・カラマツにからみつくヤマブドウやコクワのつるを手際よく取り除き、創作活動の素材を採取しています。

期待できる効果 (自己評価)

五感や創造性を高める

森や木に関する知識をつける・高める

協調性や社会性を育む

森や木を通じた地域の活性化を図る

運動能力の発達を促す

木の文化や技術を伝える・つくる

生命と自分とのつながりに気づく

つくり手・買い手・使い手をつなぐ

その他()

その他()

取組主体

企画者または主催者名

網走西部森づくりセンター

参加者(参集範囲)

乳幼児 / 未就学児童 / 小・中学生

大人(高校生以上) / 高齢者 / その他()

参加者の募集

あ る / な し

条件は特になし

HPアドレス・連絡先(担当者)

網走西部森づくりセンター管理課

TEL: 0158-82-2158

FAX: 0158-82-2160

森林に親しむ集い



紋別市
平成17年度
つるきりの実施
ノコと選定ハサミによるつるの採取



紋別市
平成17年度
つるの採取
採取したつるを丸めて持ち帰る



紋別市
平成17年度
リースの部材集め
松かさや飾り付けを吟味している



紋別市
平成17年度
リースの製作
つるきりで採取したつるで個性的なリース作り